

# 食品安全情報（微生物） No.19 / 2012（2012.09.19）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

(<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>)

## 目次

### 【世界保健機関（WHO）】

1. シエラレオネのコレラアウトブレイク

### 【米国食品医薬品局（US FDA）】

1. Marte ブランドの輸入 Frescolina リコッタサラータチーズにより複数州にわたって発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク
2. マンゴーに関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Braenderup) 感染アウトブレイクの調査
3. カンタロープに関連して複数州で発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium および *Salmonella* Newport) 感染アウトブレイクの調査

### 【米国疾病予防管理センター（US CDC）】

1. Marte ブランドの輸入 Frescolina リコッタサラータチーズに関連して複数州にわたって発生しているリステリア症アウトブレイク（初発情報）
2. マンゴーに関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Braenderup) 感染アウトブレイク（2012年9月14日付更新情報）
3. カンタロープに関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium および *Salmonella* Newport) 感染アウトブレイク（2012年9月13日付更新情報）
4. ハリネズミ (hedgehog) に関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium) 感染アウトブレイク

### 【欧州委員会健康・消費者保護総局（EC DG-SANCO）】

1. 食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF: Rapid Alert System for Food and Feed)

### 【欧州疾病予防管理センター（ECDC）】

1. 欧州連合内の複数国で発生しているサルモネラ (*Salmonella* Stanley) 感染アウトブレイク

### 【Eurosurveillance】

1. 腸管出血性大腸菌感染症およびその他の腸管病原性大腸菌感染症のサーベイランスの感度：アウトブレイクの機会を利用した研究（2011年1～10月、ドイツ、バイエルン州）

### 【英国食品基準庁（UK FSA）】

1. 牛肉の積送品における牛海綿状脳症（BSE）管理対策違反

### 【ProMed mail】

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報

## 【国際機関】

- 世界保健機関 (WHO: World Health Organization)

<http://www.who.int/en/>

### シエラレオネのコレラアウトブレイク

Outbreak news: Cholera, Sierra Leone

Weekly Epidemiological Record (WER)

7 September 2012, vol. 87, no. 36 (pp. 337–344)

<http://www.who.int/wer/2012/wer8736.pdf> (PDF)

<http://www.who.int/wer/2012/wer8736/en/index.html>

シエラレオネで2012年1月1日～8月30日に報告されたコレラ患者は13,934人で、このうち死亡者は232人であった(致死率1.7%)。8月に入って新規患者の報告件数は急激に上昇している。同国の13のうち11の行政区で患者が報告されており、西部地区とポート・ロコ市の被害が最も大きい。最近流行が始まったのはケネマ地区である。

同国大統領は、拡大するコレラの流行を「人道的な危機」と宣言し、協調の推進、人的・金銭的リソースの活用、および対応への支援を行うために、大統領が主宰するコレラ特別委員会 (Cholera Task Force) を立ち上げた。コレラ流行への対応には、保健衛生省 (MOHS: Ministry of Health and Sanitation) に加え、財務や情報通信などのその他の省庁、地方政府、およびその他の協力機関や関係機関などの多部門が参加するアプローチが採用されている。

世界保健機関 (WHO) はコレラアウトブレイクへの対応に関するあらゆる活動がより協調的に行われるよう調整するために、WHO シエラレオネ事務所 (同国 Freetown) 内にコレラ管理指令センター (C4: Cholera Control and Command Centre) を設置した。同様のセンターは2008～2009年のジンバブエのコレラアウトブレイクの際に設置され、アウトブレイクへの対応に有効であったことが立証されている。第1回目のC4会議は2012年8月28日に開催され、それ以降は毎日開催されることになっている。C4は、サーベイランス、症例管理、飲料水・衛生設備、物資の補給、社会的支援などに関する種々の技術小委員会で構成されている。

MOHSは、国境なき医師団 (Médecins Sans Frontières)、ユニセフ、WHO およびその他の機関と協力し、疫学調査、サーベイランス、コレラ治療センターでの症例管理、飲料水・衛生設備管理対策、社会的支援および地域社会教育などの予防・管理対策を実施している。

WHOは、疫学調査、社会的支援およびサーベイランスの分野において同国に対する支援を続けており、WHOのアフリカ地域事務局 (AFRO) とジュネーブの本部から国際支援チームを含む専門家を派遣した。

WHO のグローバルアウトブレイク警報・対応ネットワーク (GOARN : Global Outbreak Alert and Response Network) の枠組みのもとに、バングラデシュ下痢症国際研究センター (ICDDR,B : International Center for Diarrheal Disease Research, Bangladesh) は、コレラへの国際的な対応に関して長年の経験を持つ、症例管理および検査に関する専門家を派遣した。

WHO は、シエラレオネに対する渡航および貿易上のいかなる制限もその適用を推奨していない。

---

### 【各国政府機関等】

- 米国食品医薬品局 (US FDA : US Food and Drug Administration)

<http://www.fda.gov/>

#### 1. Marte ブランドの輸入 Frescolina リコッタサラータチーズにより複数州にわたって発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイク

Investigation of a Multistate Outbreak of *Listeria monocytogenes* Infections Due to Imported Marte Brand Frescolina Ricotta Salata Cheese

September 12, 2012

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/CORENetwork/ucm319197.htm>

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/CORENetwork/> (FDA CORE Network)

米国食品医薬品局 (US FDA)、米国疾病予防管理センター (US CDC)、および州と地域の公衆衛生当局は、Forever Cheese 社 (ニューヨーク州ロングアイランド) が販売した Marte ブランドの輸入 Frescolina リコッタサラータチーズに関連して複数州にわたり発生しているリステリア (*Listeria monocytogenes*) 感染アウトブレイクを調査している。

同社は、ロット番号 T9425 および製造コード 441202 で確認できる当該チーズの自主回収を開始した。

CDC によると、*L. monocytogenes* の本アウトブレイク株感染患者は 2012 年 9 月 11 日時点で全米 11 州およびワシントン D.C. から計 14 人報告されており、全員が入院した。死亡者は 3 人報告され、このうち少なくとも 1 人はリステリア症が原因であったとされている。

#### 当該チーズの販売地域

このチーズは、2012 年 6 月 20 日～8 月 9 日に、カリフォルニア、コロラド、フロリダ、ジョージア、イリノイ、インディアナ、マサチューセッツ、メリーランド、メイン、モン

タナ、ニュージャージー、ニューメキシコ、ニューヨーク、オハイオ、オレゴン、ペンシルバニア、バージニアおよびワシントンの 18 州とワシントン D.C.のスーパーマーケット、レストランおよび卸売業者に販売された。

(食品安全情報(微生物) 本号 US CDC 記事参照)

## 2. マンゴーに関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Braenderup) 感染アウトブレイクの調査

FDA Investigates Multistate Outbreak of *Salmonella* Braenderup Infections Associated with Mangoes

September 13, 2012

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/CORENetwork/ucm317337.htm>

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/CORENetwork/> (FDA CORE Network)

### 更新情報

米国食品医薬品局 (US FDA) は、Agricola Daniella 社のマンゴーを喫食しないよう消費者に注意喚起を行っている。同社はメキシコの Sinaloa 州に複数の農場と 1 カ所の包装施設を所有している。FDA の検査で、同社のマンゴーからサルモネラが検出された。

FDA は Agricola Daniella 社を輸入警告リスト (Import Alert) に載せた。このことは、同社のマンゴーは輸入業者が独自に民間検査機関に依頼してサルモネラに汚染していないことを証明しない限り米国に輸入できないということを意味する。

8 月 29 日に Splendid Products 社 (カリフォルニア州 Burlingame) は Daniella ブランドの特定ロットのマンゴーの回収を開始した。カナダでもサルモネラ (*Salmonella* Braenderup) 感染患者が出たことから、同国の輸入業者も同ブランドのマンゴーの自主回収を開始した。また、Splendid Products 社が納入した同ブランドのマンゴーを使用してフルーツ製品を製造した複数の業者も自社製品の回収を開始した。

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、*S. Braenderup* 感染患者が 16 州で 105 人発生したことを報告している。カリフォルニア州公衆衛生局 (CDPH) は、供給チェーンに沿って複数のアウトブレイク株感染患者を追跡調査し、Agricola Daniella 社の特定に至った。

(関連記事 : US FDA)

FDA warns consumers against eating mangoes from Agricola Daniella of Mexico:  
Farm's mangoes contain strains of *Salmonella*

September 14, 2012

<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm319464.htm>

(食品安全情報(微生物) 本号 US FDA、No.18 / 2012(2012.09.05) US CDC、US FDA 記事参照)

### 3. カンタロープに関連して複数州で発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium および *Salmonella* Newport) 感染アウトブレイクの調査

Investigation of Multistate Outbreak of *Salmonella* Typhimurium and *Salmonella* Newport Infections Potentially Linked to Cantaloupe Grown at Chamberlain Farms in Southwest Indiana

September 13, 2012

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/CORENetwork/ucm315879.htm>

<http://www.fda.gov/Food/FoodSafety/CORENetwork/> (FDA CORE Network)

#### 更新情報

米国食品医薬品局 (US FDA) は、Chamberlain Farms 社 (インディアナ州 Owensville) のカンタロープが現在発生中のサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイクに関連していることを発表した。

FDA が同農場で採取したカンタロープの検体から、アウトブレイク株である *S.* Typhimurium (DNA フィンガープリント 0324) および *S.* Newport (DNA フィンガープリント 0807) が検出された。米国疾病予防管理センター (US CDC) の報告によると、*S.* Typhimurium (DNA フィンガープリント 0324) 感染患者は 25 州の計 240 人で、*S.* Newport (DNA フィンガープリント 0807) 感染患者はイリノイ、インディアナ、ミシガン、ミズーリ、オハイオ、バージニアおよびウィスコンシンの各州の計 30 人である。インディアナ州およびイリノイ州当局の追跡調査により、*S.* Newport 感染患者は Chamberlain Farms 社の出荷店舗で購入したカンタロープを喫食したことが示され、関連が裏付けられた。

また、インディアナ州当局は、Chamberlain Farms 社の農場で採取したスイカの検体から DNA フィンガープリントの異なる *S.* Newport (DNA フィンガープリント 0149) を検出したことを報告した。*S.* Newport (DNA フィンガープリント 0149) 感染患者についても調査中であるが、現在のところ同社との関連を示すエビデンスはない。

Chamberlain Farms 社は、予防策として出荷店舗に同社のスイカを撤去するよう依頼した。また、スイカの撤去のために食品チェーンで行われた対応策も発表された。

(食品安全情報(微生物) 本号 US CDC、No.18 / 2012(2012.09.05)、No.17 / 2012(2012.08.22) US CDC、US FDA 記事参照)

---

● 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)  
<http://www.cdc.gov/>

1. Marte ブランドの輸入 Frescolina リコッタサラータチーズに関連して複数州にわたって発生しているリステリア症アウトブレイク (初発情報)

## Multistate Outbreak of Listeriosis Linked to Imported Marte Brand Frescolina Ricotta Salata Cheese

September 11, 2012

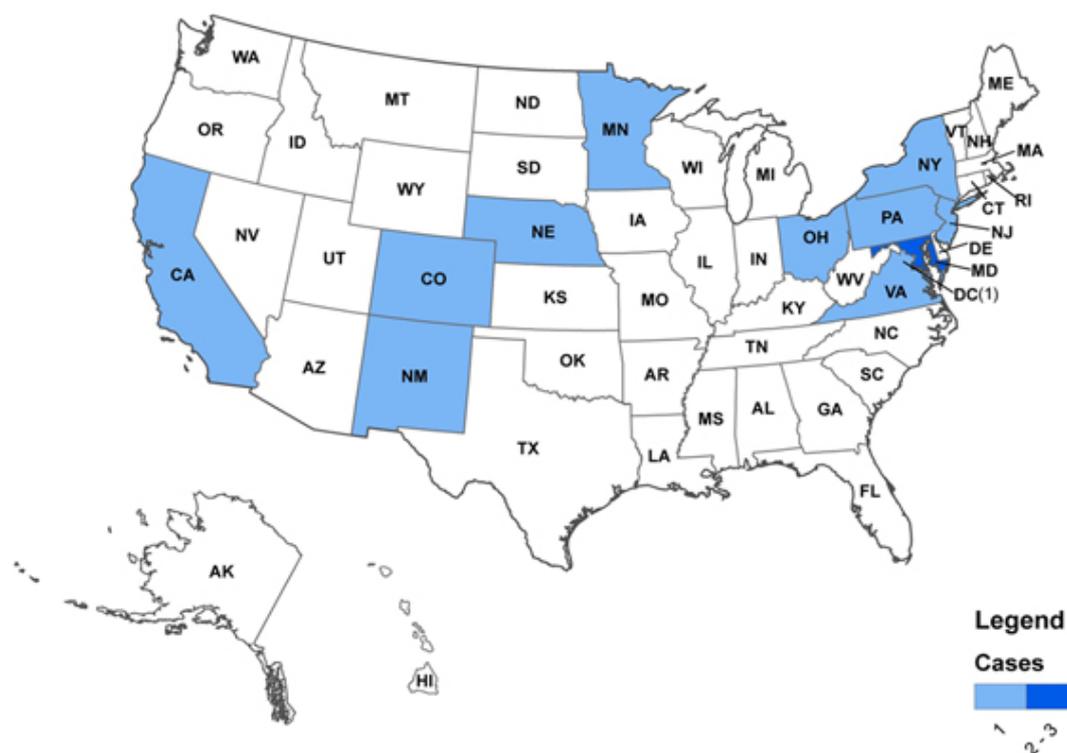
<http://www.cdc.gov/listeria/outbreaks/cheese-09-12/index.html>

### 初発情報

米国疾病予防管理センター（US CDC）は、複数州の公衆衛生・規制当局および米国食品医薬品局（US FDA）と協力し、複数州にわたって発生しているリステリア（*Listeria monocytogenes*）感染アウトブレイクを調査している。合同調査によると、リコッタサラータチーズと関連している可能性が高い。

2012年9月11日までに11州およびワシントンD.C.からアウトブレイク株感染患者14人が報告されている（図）。

図：リステリア（*Listeria monocytogenes*）アウトブレイク株感染患者数（2012年9月11日までに報告された患者、n=14）



情報が得られた患者の診断日は2012年3月28日～8月30日である。患者14人全員が入院した。14人のうち4人は妊娠に関連しており、うち2人は新生児であった。残りの患者10人の年齢範囲は56～87歳、年齢中央値は79歳で、55%が女性であった。胎児の死亡は報告されていない。死亡者3人が報告され、ネブラスカ州およびニューヨーク州の計2人の死亡者のうち少なくとも1人はリステリア症が原因であるが、ミネソタ州の1人はリステリア症が原因ではなかった。

## アウトブレイク調査

当該地域、州および連邦の公衆衛生・農務・規制の各当局が行った疫学調査、検査および追跡調査の結果から、Forever Cheese 社が輸入・販売した Marte ブランドの輸入 Frescolina リコッタサラータチーズが感染源である可能性が高いことが示されている。発症前 1 カ月間に喫食した食品およびその他の暴露について患者に聞き取り調査を行った。患者 14 人のうち 12 人 (86%) がソフトチーズを喫食したことを報告した。チーズの包装に関する情報を報告した患者 6 人全員が、小売店でカット後に再包装されたチーズを喫食していた。患者は多数の様々な小売店の様々なチーズを喫食したことを報告したため、調査は複雑になっている。患者の多くが共通して喫食した単一のチーズはなく、まな板や器具を介して交差汚染が発生した可能性が考えられる。調査は、患者がチーズを購入した複数の小売店に共通して納入されたカット前のチーズを特定することに重点が置かれた。

FDA は、Forever Cheese 社が輸入・販売した Marte ブランドの輸入 Frescolina リコッタサラータチーズのカットしていない製品の検体からアウトブレイク株を検出した。FDA は、CDC、関連業者および患者発生州の公衆衛生当局と協力して、汚染原因を明らかにする調査を行っている。

(食品安全情報(微生物) 本号 US FDA 記事参照)

## 2. マンゴーに関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Braenderup) 感染アウトブレイク (2012 年 9 月 14 日付更新情報)

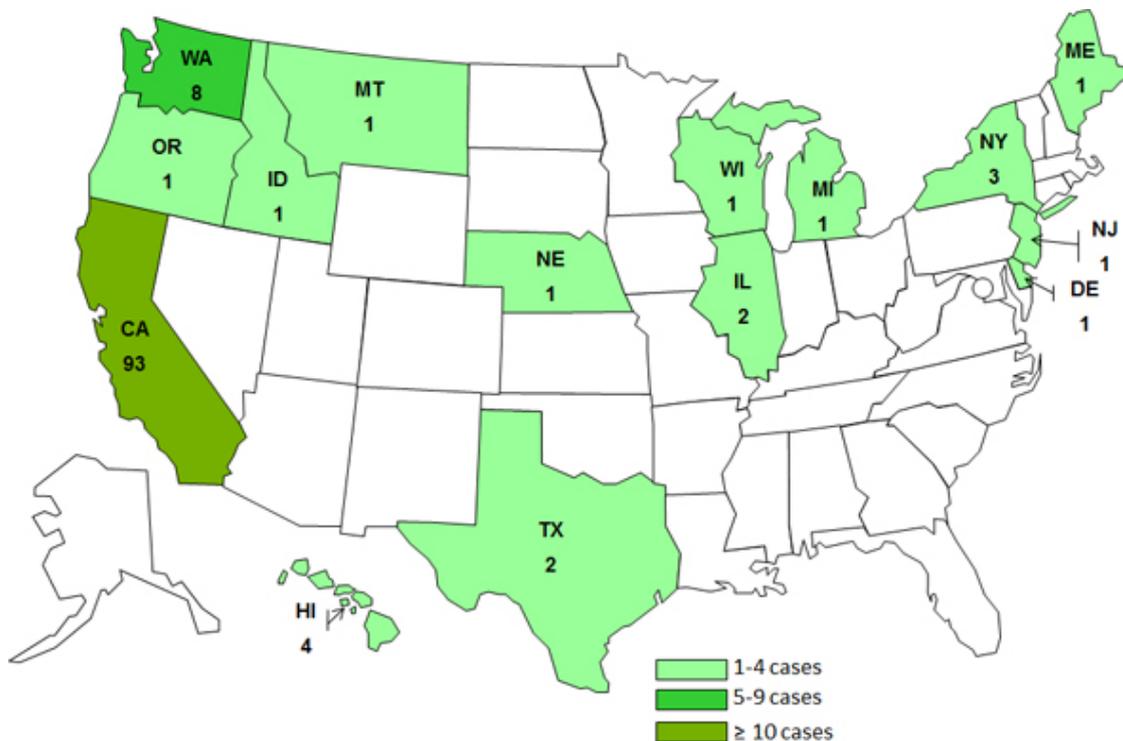
Multistate Outbreak of *Salmonella* Braenderup Infections Associated with Mangoes  
September 14, 2012

<http://www.cdc.gov/salmonella/braenderup-08-12/index.html>

## 患者情報の更新

2012 年 9 月 13 日時点で全米 15 州からサルモネラ (*Salmonella* Braenderup) アウトブレイク株感染患者 121 人が報告されており、その過半数 (93 人) はカリフォルニア州からの報告である (図)。

図：サルモネラ (*Salmonella* Braenderup) アウトブレイク株感染患者数 (2012年9月13日までに報告された患者、n=121)



情報が得られた患者の発症日は2012年7月3日～8月27日である。患者の年齢範囲は1歳未満～86歳、年齢中央値は30歳で、54%が女性である。情報が得られた73人のうち25人(34%)が入院した。死亡者は報告されていない。

#### 回収情報の更新

2012年9月13日、米国食品医薬品局 (FDA) は、メキシコ Sinaloa 州に複数の農場と包装施設1カ所を持つ生産業者 (Agricola Daniella 社) のマンゴーを喫食しないように警告した。FDAの検査で、当該生産業者のマンゴーからサルモネラが検出された。

FDAはAgricola Daniella社を輸入警告リスト (Import Alert) に載せた。このことは、同社のマンゴーは輸入業者が独自に民間検査機関に依頼してサルモネラに汚染していないことを証明しない限り米国に輸入できないということを意味する。

(食品安全情報(微生物) 本号 US FDA、No.18 / 2012(2012.09.05) US CDC、US FDA 記事参照)

### 3. カンタロープに関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium および *Salmonella* Newport) 感染アウトブレイク (2012年9月13日付更新情報)

Multistate Outbreak of *Salmonella* Typhimurium and *Salmonella* Newport Infections

Linked to Cantaloupe

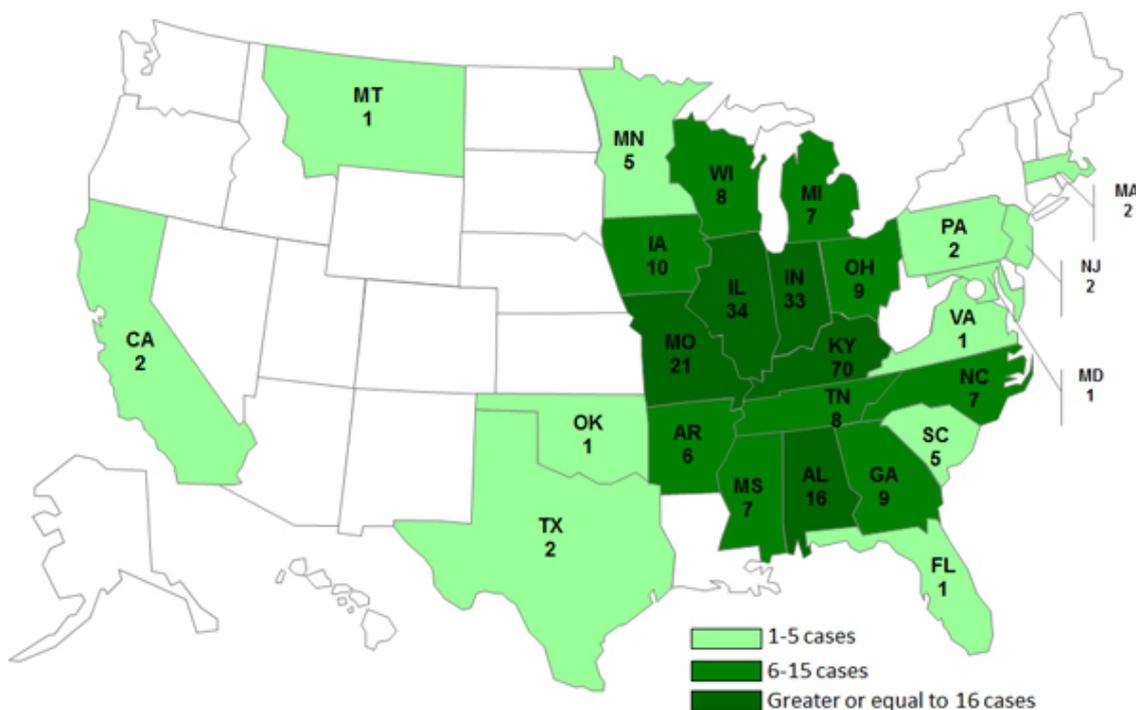
September 13, 2012

<http://www.cdc.gov/salmonella/typhimurium-cantaloupe-08-12/index.html>

#### 患者数の更新

サルモネラ (*Salmonella* Typhimurium および *Salmonella* Newport) アウトブレイク株感染患者は、2012年9月12日時点で全米26州から270人 (*S.* Typhimurium が240人、*S.* Newport が30人) が報告されている (図)。発症日は2012年7月6日～8月30日である。患者の年齢範囲は1歳未満～100歳、年齢中央値は49歳で、患者の55%が女性である。情報が得られた患者196人のうち101人 (52%) が入院し、ケンタッキー州で死亡者が3人報告されている。

図：サルモネラ (*Salmonella* Typhimurium および *Salmonella* Newport) アウトブレイク株感染患者数 (2012年9月12日までに報告された患者、n=270)



#### アウトブレイク調査

2012年8月、米国疾病予防管理センター (US CDC) は、複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Newport) 感染アウトブレイクについて、複数州の公衆衛生当局および米国食品医薬品局 (US FDA) と協力して調査を開始した。当該地域、州および連邦の公衆衛生・農務・規制の各当局が行った疫学調査、検査および追跡調査の結果から、インディアナ州の Chamberlain Farms 社が栽培したカンタロープがこの *S.* Newport 感染アウトブレイクの感染源である可能性が示されている。情報が得られた患者30人の発症日

は 2012 年 7 月 9 日～8 月 18 日である。患者の年齢範囲は 4～80 歳、年齢中央値は 60 歳で、43%が女性である。情報が得られた患者 23 人のうち 11 人（47%）が入院した。死亡者は報告されていない。地理的分布、発症日および初期の聞き取り調査結果から、この *S. Newport* 感染アウトブレイクは Chamberlain Farms 社に関連して発生している *S. Typhimurium* 感染アウトブレイクと関連している可能性が考えられた。*S. Newport* 感染アウトブレイクの患者で情報が得られた 21 人のうち 13 人（61%）が発症前 1 週間にカンタロープを喫食したことを報告した。

Chamberlain Farms 社に対する調査の一環として、FDA はカンタロープの検体を採取して検査を行った。このうち 1 検体から *S. Newport* 株が検出され、その PFGE パターン（0807）は *S. Newport* 感染患者集団由来の株と同一であった。疫学的関連および検査機関での検査結果から、CDC は 2 件のアウトブレイク調査を統合し、2 種類のサルモネラ株とともにアウトブレイク株として扱うことにした。

同じく Chamberlain Farms 社に対する調査の一環として、インディアナ州当局は同社で栽培されたスイカの検体を採取して検査を行った。このうち 1 検体から上記と異なる PFGE パターン（0149）の *S. Newport* が検出された。この PFGE パターンは、8 州で発生した別の *S. Newport* 感染患者集団の 25 人由来の株と区別がつかず、この集団については州および連邦当局が調査中である。これらの患者とスイカの喫食との関連の有無を明らかにするため調査が行われている。

（食品安全情報(微生物) 本号 US FDA、No.18 / 2012(2012.09.05)、No.17 / 2012(2012.08.22) US CDC、US FDA 記事参照)

#### 4. ハリネズミ (hedgehog) に関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium) 感染アウトブレイク

Multistate Outbreak of Human *Salmonella* Typhimurium Infections Linked to Hedgehogs

September 6, 2012

<http://www.cdc.gov/salmonella/typhimurium-hedgehogs-09-12/>

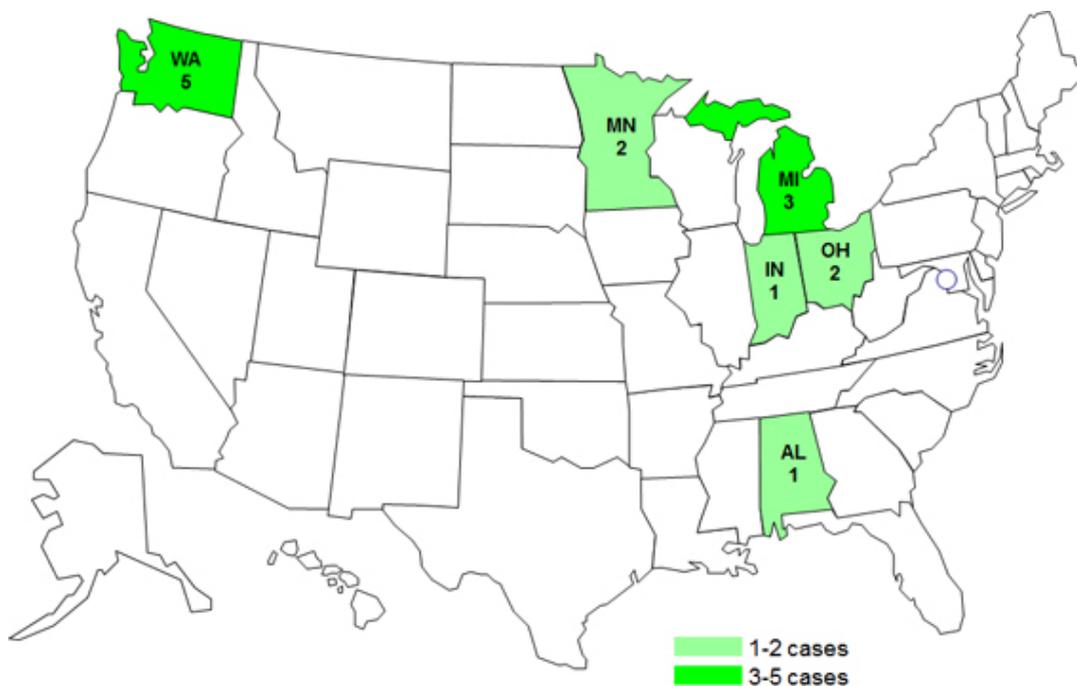
##### 初発情報

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、複数州の公衆衛生・農務当局および米国農務省動植物衛生検査局の動物ケアプログラム (USDA APHIS AC) と協力し、複数の繁殖業者が販売したハリネズミ (hedgehog) に関連して複数州にわたって発生しているサルモネラ (*Salmonella* Typhimurium) 感染アウトブレイクを調査している。

##### アウトブレイク調査

2012 年 9 月 5 日時点で全米 6 州からアウトブレイク株感染患者 14 人が報告されている (図)。情報が得られた患者の発症日は 2011 年 12 月 26 日～2012 年 8 月 13 日である。患者の年齢範囲は 1 歳未満～62 歳、患者の 50%が 10 歳以下で、62%が女性である。情報が得られた患者 10 人のうち 3 人が入院した。死亡者は報告されていない。

図：サルモネラ (*Salmonella Typhimurium*) アウトブレイク株感染患者数 (2012年9月5日までに報告された患者、n=14)



発症前1週間に接触した動物および喫食した食品について聞き取り調査を行ったところ、調査を行った患者10人全員が発症前にハリネズミまたはその飼育環境と接触したことを報告した。患者の何人かは、接触したのは African Pygmy hedgehog (ヨツユビハリネズミ) であったと報告した。疾患と関連している可能性があるハリネズミの種類および供給元を特定するための調査が行われている。購入先を覚えていた患者からの報告によると、患者はハリネズミを複数州の様々な繁殖業者から購入していた。

USDA APHIS AC は、USDA 認可の繁殖業者由来で疾患に関連しているハリネズミの追跡調査を行っている。また、複数州の保健局は、患者の家庭から採取した環境検体およびハリネズミ検体の検査を行った。患者の家庭でハリネズミの飼育場所と水浴場所から採取した2検体からアウトブレイク株が検出された。

---

● 欧州委員会健康・消費者保護総局 (EC DG-SANCO: Directorate-General for Health and Consumers)

[http://ec.europa.eu/dgs/health\\_consumer/index\\_en.htm](http://ec.europa.eu/dgs/health_consumer/index_en.htm)

## 食品および飼料に関する早期警告システム (RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed)

[http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/index\\_en.htm](http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/index_en.htm)

RASFF Portal Database

[http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff\\_portal\\_database\\_en.htm](http://ec.europa.eu/food/food/rapidalert/rasff_portal_database_en.htm)

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/index.cfm?event=notificationsList>

2012年9月3日～9月14日の主な通知内容

### 注意喚起情報 (Information for Attention)

ハンガリー産七面鳥肉スティック (オーストリア経由) のサルモネラ (*S. Stanley*、25g 検体陽性)、オランダ産緑豆モヤシの志賀毒素産生性大腸菌、ブラジル産冷凍鶏肉のサルモネラ (*S. Enteritidis*、25g 検体陽性)、イタリア産冷蔵ルッコラの志賀毒素産生性大腸菌 (25g 検体陽性)、タイ産コメの昆虫、イタリア産バニラアイスクリームのリステリア (*L. monocytogenes*、360 CFU/g)、フランス産生乳チーズのサルモネラ (*S. Dublin*) の疑い、ポーランド産冷凍牛肉 (オランダ経由) のサルモネラ (*S. Typhimurium*)、インド産の paan leaf のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、ノルウェー産サーモンミールの腸内細菌 (400; 490; 500 CFU/g)、スリランカ産 paan leaf のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、ドイツ産冷蔵ベーコンのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性) とサルモネラ属菌 (25g 検体陽性) など。

### フォローアップ情報 (Information for follow-up)

ベルギー産キュウリ・豚肉冷蔵加工食品のリステリア (*L. monocytogenes*) の疑い、オーストリア産ビタースイートチョコレートの昆虫 (幼虫)、オランダ産有機ヒマワリ搾油粕 (デンマーク経由) のサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体陽性)、ベルギー産菜種粕の *S. Typhimurium* (4,12:i:1,2 /25g)、オランダ産ウサギフィレ肉のサルモネラの疑い、ドイツ産肉ミールのサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、イタリア産天然ミネラルウォーターの緑膿菌 (1,000; 750; 500 /250ml)、ウクライナ産有機ヒマワリ搾油粕 (オランダとデンマーク経由) のサルモネラ (*S. Montevideo*、25g 検体 4/4 陽性)、オランダ産ラム肉ミールのサルモネラ (*S. Typhimurium*)、フランス産アンコウの線虫など。

### 通関拒否通知 (Border Rejection)

バングラデシュ産 paan leaf のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、ウクライナ産菜種のダニ、アルゼンチン産冷蔵骨なし牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (25g 検体陽性)、南アフリカ共和国産魚粉のサルモネラ、インド産冷凍エビのコレラ菌 (25g 検体 1/5 陽性)、ペルー産魚粉

のサルモネラ (*S. Anatum*、25g 検体陽性)、アルゼンチン産冷蔵骨なし牛肉の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx1* と *stx2* 陽性) など。

#### 警報通知 (Alert Notification)

フランス産液状卵白 (英国経由) のサルモネラ (group D)、レバノン産ゴマペーストのサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、インド産カレー (ドイツ経由) のサルモネラ属菌、ポーランド産の機械的に処理された冷凍家禽肉のサルモネラ (*S. Newport*、10g 検体陽性)、フランス産ロックフォールチーズの志賀毒素産生性大腸菌 (O26:H10; *stx1+*; *eae+*)、ポルトガル産生鮮チーズのリステリア (*L. monocytogenes*、1,400; 3,100 CFU/g)、リトアニア産スモークベーコンのリステリア (*L. monocytogenes*、564,000 CFU/g)、ベルギー産カレー (オランダ経由) のサルモネラ属菌、オランダ産の挽いた黒コショウ (ベルギー経由) のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、イタリア産オリーブのボツリヌス菌、スペイン産冷蔵ハムのリステリア (*L. monocytogenes*、<40 CFU/g)、ドイツ産冷凍子羊肉マリネステーキのサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体陽性)、ギリシャ産ミネラルウォーターの緑膿菌 (68,000 CFU/250ml)、ポーランド産の機械的に処理された鶏肉のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、ポーランド産真空包装スモークサーモンのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、ドイツ産カレーのサルモネラ属菌、トルコ産乾燥有機セージ (オランダ経由) のサルモネラ属菌 (25g 検体陽性)、イタリア産チーズのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、ポーランド産冷蔵スモークサーモン切り落としのリステリア (*L. monocytogenes*、1,100 MPN/g)、韓国産ガラクトオリゴ糖のサルモネラ (*S. Oranienburg*、25g 検体 4/11 陽性)、ハンガリー産原材料使用のドイツ産有機カイワレ大根 (オランダ経由) のセレウス菌 (280,000 CFU/g)、フランス産冷凍牛切り落とし肉のサルモネラ (*S. Mbandaka* と *S. Montevideo*、ともに 25g 検体陽性)、スペイン産チョリソーソーセージのサルモネラ (10g 検体陽性) など。

---

● 欧州疾病予防管理センター (ECDC : European Centre for Disease Prevention and Control)

<http://www.ecdc.europa.eu/>

欧州連合内の複数国で発生しているサルモネラ (*Salmonella Stanley*) 感染アウトブレイク

*Salmonella Stanley* – Multistate (EU) – Slowly evolving outbreak

Communicable disease threats report, 19-25 August 2012, week 34

[http://www.ecdc.europa.eu/en/publications/Publications/Forms/ECDC\\_DispForm.aspx?I](http://www.ecdc.europa.eu/en/publications/Publications/Forms/ECDC_DispForm.aspx?I)

[D=946](#)

[http://www.ecdc.europa.eu/en/publications/Publications/CDTR\\_online\\_version\\_24\\_August\\_2012.pdf](http://www.ecdc.europa.eu/en/publications/Publications/CDTR_online_version_24_August_2012.pdf) (感染症週報 PDF)

欧州疾病予防管理センター (ECDC) は、「感染症週報 2012 年 8 月 19～25 日 (第 34 疫学週) 号 (Communicable Disease Threats Report, Week 34, 19 – 25 August 2012)」を発行した。これよりサルモネラ (*Salmonella Stanley*) 感染アウトブレイクに関する部分を紹介する。

2012 年 7 月 9 日、ベルギーは「食品および水由来疾患に関する疫学情報共有システム (EPIS-FWD)」を介して同国での *S. Stanley* 感染アウトブレイクを報告した。その後、オーストリア、ドイツおよびハンガリーがベルギーのアウトブレイク株と同じ PFGE パターンを示す *S. Stanley* の感染患者を報告した。記述疫学から、持続的に存在する共通感染源からの感染が示唆されている。オーストリアの七面鳥孵化場で本アウトブレイク株が確認され、アウトブレイクとの関連の可能性について確認が必要になっている。

#### 疫学調査の概要

上述の 4 カ国から、同じ抗生物質耐性プロファイル (ナリジクス酸耐性) と PFGE プロファイルを示す *S. Stanley* の感染患者が報告されている。後ろ向き調査の結果によると、このアウトブレイク株 (PFGE プロファイルにより確認された株) の感染患者は 2011 年 8 月にハンガリーで既に報告され、その後 2012 年 1 月に他の 3 カ国で患者数が増加し、2012 年 5 月には患者数の 2 度目の増加がみられていた (図)。患者の大多数が 9 歳未満で、集団発生はない。全ての患者が国内感染の散発例で、発症前の欧州連合 (EU) 域外への旅行歴はない。

2012 年は、8 月 22 日までにこの 4 カ国で *S. Stanley* アウトブレイク株の感染患者 267 人が報告されている。アウトブレイク株の PFGE プロファイルとアジアで頻繁に分離されるいくつかの *S. Stanley* 株の PFGE プロファイル (デンマークのデータセットを使用) との比較が行われたが、一致するものはなかった。

#### ECDC によるリスク評価

2012 年 7 月 27 日、ECDC はヨーロッパ早期警告・対応システム (EWRS) および EPIS-FWD を介したデータにもとづいて本アウトブレイクの迅速リスク評価を行った。このリスク評価は適宜更新される予定である。

感染源および感染経路がまだ特定・確認されていないため、この 4 カ国から新たな患者が報告される可能性がある。また、ヒト由来の *S. Stanley* 株の PFGE 解析が現在進行中であるため、別の加盟国からアウトブレイク株と関連のある患者が報告される可能性もある。

疫学および微生物学的な情報の解析をさらに進めることによりこのアウトブレイクの類型化が可能になると考えられる。

#### 対策

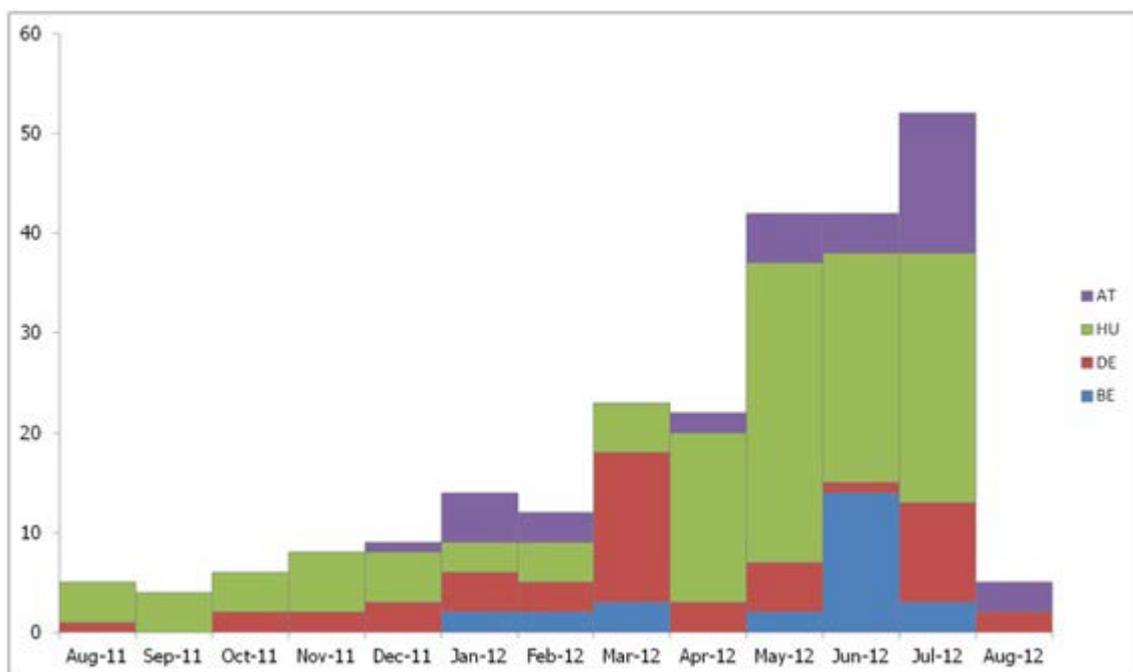
ECDC は、疫学・微生物学情報の収集、加盟国での調査への支援、EU の食品安全担当

機関との連携により、EU レベルでの協調的な対応を促進している。

ECDC は、入手可能な疫学・微生物学情報のレビューを行い、欧州レベルでのリスク評価に必要な次のステップを特定するために、4 カ国と EPIS-FWD の専門家からなる会議を開催した。現在、本アウトブレイクと七面鳥との関連を調べるための詳細な調査が行われている。

(食品安全情報 (微生物) No.16/2012 (2012.08.08) ECDC 記事参照)

図：サルモネラ (*Salmonella Stanley*) アウトブレイク株感染患者の加盟国別および報告月別の分布 (確定および疑い患者、2011 年 8 月～2012 年 8 月)



● Eurosurveillance

<http://www.eurosurveillance.org/Default.aspx>

腸管出血性大腸菌感染症およびその他の腸管病原性大腸菌感染症のサーベイランスの感度：アウトブレイクの機会を利用した研究 (2011 年 1～10 月、ドイツ、バイエルン州)  
Using an Outbreak to Study the Sensitivity of the Surveillance of Enterohaemorrhagic *Escherichia coli* and Other Enteropathic *Escherichia coli* in Bavaria, Germany ,  
January to October 2011  
Eurosurveillance, Volume 17, Issue 34, 23 August 2012

## 要旨

2011年にドイツで溶血性尿毒症症候群（HUS）／腸管出血性大腸菌（EHEC）アウトブレイクが発生した際、同国バイエルン州で EHEC 感染患者数および EHEC 以外の腸管病原性大腸菌（non-EHEC *E. coli*）感染患者数がともに増加した。本研究では、この HUS／EHEC アウトブレイクの期間中（第 21～29 疫学週）に報告されたがアウトブレイクとは無関係の EHEC および non-EHEC *E. coli* 感染患者について、アウトブレイク期間の前（1～20 週）および後（30～42 週）に報告された同患者と、人口統計学、臨床および微生物学上の特徴を比較した（表 1）。

アウトブレイク期間中に報告された EHEC および non-EHEC *E. coli* の週間感染患者数は、2006～2010 年の相当する時期に報告された患者数のそれぞれ約 5 倍および約 2 倍であった。アウトブレイク期間中に報告された EHEC 感染患者では、その前後の期間の同患者と比べて出血性下痢の発症者の割合が高く、詳細不明の（unspecified）下痢の発症者の割合は低かった。また EHEC 感染患者は、アウトブレイク期間中およびその後の期間の方がアウトブレイク前の期間より入院率が高かった。アウトブレイク期間中の EHEC 感染患者の年齢中央値は 26.5 歳（範囲は 0～90 歳）で、アウトブレイク前の 14.5 歳（0～94 歳）およびアウトブレイク後の 5 歳（0～81 歳）より高かった。アウトブレイク期間中の non-EHEC *E. coli* 感染患者の年齢中央値 18 歳（0～88 歳）も、アウトブレイクの前後の期間での年齢中央値 2 歳（ $p < 0.001$ ）より高かった。

以上よりドイツの EHEC および non-EHEC *E. coli* サーベイランスシステムは、通常時、EHEC 感染患者および non-EHEC *E. coli* 感染患者（特に成人患者）の発生数を過小推定し、EHEC 感染患者に占める重症者の割合を過大推定していると考えられる。下痢症患者由来の検便検体の全てについて腸管病原性大腸菌の検査を行うことを検討すべきである。

表 1：溶血性尿毒症症候群（HUS）／腸管出血性大腸菌（EHEC）アウトブレイク期間中に報告された散発性症候性 EHEC 患者の人口統計学および臨床的特徴、およびそれらとアウトブレイク期間前および期間後の患者の特徴との比較（2011 年、ドイツ、バイエルン州、n=329）

TABLE 1

Demographic and clinical features of sporadic symptomatic EHEC cases notified during the HUS/EHEC outbreak period, compared to the preceding and following periods, Bavaria, Germany, 2011 (n=329)

Characteristics of cases	Pre-outbreak period (weeks 1–20) n=62		Outbreak period (weeks 21–29) n=180		Post-outbreak period (weeks 30–42) n=87	
	n/N(%) <sup>a</sup>	p	n/N(%) <sup>a</sup>	n/N(%) <sup>a</sup>	p	
Median age in years (range)	14.5 (0–94)	0.111	26.5 (0–90)	5 (0–81)	0.003	
Children <18 years-old	34/62 (55)	0.029	70/180 (39)	49/87 (56)	0.007	
Adults ≥18 years-old	28/62 (45)	0.029	110/180 (61)	38/87 (44)	0.007	
Females	37/60 (62) <sup>b</sup>	0.180	92/178 (52) <sup>b</sup>	49/86 (57) <sup>b</sup>	0.419	
Among children <18 years-old	21/33 (64) <sup>b</sup>	0.197	34/68 (50) <sup>b</sup>	20/48 (42) <sup>b</sup>	0.376	
Among adults ≥18 years-old	16/27 (59) <sup>b</sup>	0.542	58/110 (53)	29/38 (76) <sup>c</sup>	0.011	
Diarrhoea, any <sup>d</sup>	55/62 (89)	0.054	172/180 (96)	82/87 (94)	0.643	
Diarrhoea, bloody	6/62 (10)	0.001	58/180 (32)	17/87 (20)	0.031	
Diarrhoea, unspecified	50/62 (81)	0.022	117/180 (65)	66/87 (76)	0.073	
Stomach cramps	28/62 (45)	0.236	97/180 (54)	38/87 (44)	0.118	
Vomiting	18/62 (29)	0.115	35/180 (19)	10/87 (11)	0.104	
Hospitalisation	15/62 (24)	0.021	73/180 (41)	29/87 (33)	0.255	
Among children <18 years-old	11/34 (32)	0.384	17/70 (24)	13/49 (27)	0.781	
Among adults ≥18 years-old	4/28 (14)	<0.001	56/110 (51)	16/38 (42)	0.349	
Median duration of hospitalisation in days (range)	4.5 (1–10)	0.417	4 (1–20)	5 (2–22)	0.055	

EHEC: enterohaemorrhagic *Escherichia coli*; HUS: haemolytic-uraemic syndrome.

<sup>a</sup> Unless otherwise specified.

<sup>b</sup> For cases for which information was available.

<sup>c</sup> Significantly different from 50%.

<sup>d</sup> 'Any diarrhoea' includes the cases that were reported with either bloody or unspecified diarrhoea, or both types.

## 結論および提言

今回の研究結果は、HUS/EHEC アウトブレイクの期間中に EHEC および non-EHEC *E. coli* の感染患者数が増加したのは受診に関する行動の変化（特に成人で）と診断方法の変更の両者による可能性が高いとする仮説を支持し、またアウトブレイク期間中にメディアや公衆衛生当局が発した注意喚起によってこれらの変化や変更が触発されたことを示唆している。

腸管病原性大腸菌の検査機関確定症例については全例の届出義務がある。しかし、症状が軽い患者は受診する可能性が低く、また微生物学的検査が行われる対象はガイドラインによって制限されているため、ドイツのサーベイランスシステムでは、重症患者の割合が過大推定され、全症例数が過小推定されている可能性が高い。従って法定サーベイランスシステムによる全症例数の推定には妥当性に限界がある。

バイエルン州の EHEC および non-EHEC *E. coli* 感染患者の年間発生率は人口 100,000 人当たりそれぞれ 8 人および 16 人以上であると推定される。このように発生率が高いので、全ての検便検体について腸管病原性大腸菌の検査を行うことを検討すべきである。

検査総数を考慮して求めた陽性率（positivity rate）により、様々な年齢層における実被害のより正確な推定が可能であると考えられる。しかしバイエルン州では陽性率のデータは現時点では存在しない。症候群データも届出データを補完し、実被害の推定に役立つと考えられる。また、症候性患者の検体の一部について腸管病原性大腸菌やその他の胃腸病原体の検査を体系的に行い、2つのシステムで推定された発生率を比較することにより、法定サーベイランスシステムで収集されたデータの妥当性の検証が可能であると考えられる。

---

● 英国食品基準庁（UK FSA: Food Standards Agency, UK）

<http://www.food.gov.uk/>

#### 牛肉の積送品における牛海綿状脳症（BSE）管理対策違反

Breaches of BSE controls in consignments of beef

6 September 2012

<http://www.food.gov.uk/news-updates/news/2012/sep/bse#.UElQvkLDVJA>

#### 2011年8月に確認された違反

2011年8月に北アイルランド農業地方開発局（DARD）の職員が実施した定期検査により、北アイルランドの認可とちく場・食肉カット施設である Omagh Meats 社が受領した牛二分体（side）の3回の積送品のそれぞれで牛海綿状脳症（BSE）管理対策違反が確認された。

2011年8月17日、同社は Okehampton 近郊の認可とちく場 West Devon Meat 社から牛二分体76体の積送品を受領した。この積送品に添付されていた書類には、それぞれの二分体が由来するウシの月齢（30カ月齢以上（OTM）または30カ月齢未満（UTM））が記載されていなかった。

2011年8月23日には、Carlisle の認可とちく場 West Scottish Lamb 社から牛二分体の積送品が同社に2回に分けて納入された。

1回目には108体の牛二分体が含まれており、このうち52体はOTMウシ、56体はUTMウシ由来であった。OTMウシ由来の二分体のうちの6体に誤ってUTMウシ由来を示すラベルが貼られていた。

2回目の積送品には118体の牛二分体が含まれていた。添付書類にOTMウシ由来と記載されていた二分体のうち16体にUTMウシ由来のラベルが誤って貼られていたことが明らかになった。また、OTMウシ由来の二分体うち2体は添付書類に誤ってUTMウシ由来と記載されていた。

## 2011年9月に確認された違反

2011年9月1日、北アイルランドの別の認可とちく場・食肉カット施設で行われた定期検査により、Dorset州 Sturminster Newton の認可とちく場 ABP 社から納入された安全マークが付いた (health-marked) 牛四分体 224 体の積送品において、1 体に脊髄が混入しているのが見つかった。その他のすべての四分体が調査され、さらなる特定危険部位 (SRM) は発見されなかった。

12 カ月齢以上のウシの脊髄は SRM として除去されなければならない。不適合であった四分体は廃棄され、SRM はフードチェーンに混入していない。

---

### ● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

### コレラ、下痢、赤痢最新情報

Cholera, diarrhea & dysentery update 2012 (43)

16 September 2012

#### コレラ

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死者数
キューバ	9/14	Artemis		16	1
ドミニカ共和国	9/14	Santiago 県		(コレラ様症状) 80~	1
ハイチ	9/8		8/24~29	180/日	
			8月	115/日	
			7月下旬	241/日	

以上

---

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室